

併設・未来のつくりびと展の出版に向けて



世界中の人たちと子どもも大人も交流を楽しんでいます。



2016年にスタートした米MIT・東京大学・LEX/Hippo三者による多言語を学ぶことによる効果の実証研究で、2021年3月、その成果が英オンライン総合学術誌Scientific Reportsに掲載。多言語に触れている方が、新しい言語の習得が容易になるという結果が脳科学的に実証されました。詳細はURLまたはQRコードより東京大学プレスリリースをご覧ください。



がら、自分の気持ちを表現し、相手の気持ちを受け止める様子が見られた。そうやってコミュニケーションをとる姿を見るにつけ、絵画もまた、人間の言語行為

子どもたちが色とりどりの豊かな言語の音の波の中で遊んでいる。明るい笑い声には国境はない。子どもたちだけではない。大人も、お年寄りも、様々な世代の人たちが、多様なことばを話す人たちと夢中になっている。

ヒッポファミリークラブは、一九八一年のスタート以来、「ことばと人間」をテーマに、『多言語（複数言語）の同時習得活動』を実践している。昨年四十周年を迎えた。英語ひとつでも大変なのに、いくつものことばで話せるなんて、どうやって？と思う方も多いかもしれない。

しかし、日本に生まれた赤ちゃんは、自然に日本語が話せるようになる。同じように、アメリカに生まれた赤ちゃんは英語が自然に話せるようになり、複数のことばが話されているヨーロッパやアメリカなどの国では、周りで話されている複数のことばを自然に話せるようになる。単語や文法を一生懸命勉強する赤ちゃんはいない。本来、人間は環境さえあれば、周りで話されていることばをいくつでも自然に習得できる力を持っているのだ。ヒッポファミリークラブでは、これらの

だと思える。言語、絵画、音楽、すべては人間の自然が生み出した、驚くべき且つ自然な人間の特質なのだから。

最近では、この多言語の環境で育ち、様々な交流体験をもった子どもたちが社会の中で活躍する姿を目にすることが多くなってきた。彼らが、口を揃えて言うことは、「世の中には多様な価値観の人たちがいて、さまざま違いがあり、どんな考えも認め合う姿勢が、いつの間にかたくさんの方々の言語と人とのいる中で自分自身についていた。その姿勢が周りの共感を生み、自分の人生が楽しくなった」ということである。

この度、私たちも『つくりびと』創刊一〇周年記念『つくりびと総合芸術展二〇二二』に、「未来のつくりびと展」というテーマで出展させていただくこととなった。子どもたちがどのような絵画を寄せてくれるのか、私どもも楽しみにしている。過去に参加した交流のことかもしれない。ホストファミリーに伝えたかった感謝の気持ち、また、オンラインで交流したお友だちに、いつか実際に会いたいという気持ちかもしれない。あるいは将来、出会う友だちを想い、希望にあふれた絵画になるのだろうか。どんな未来を子どもたちは描くのだろうか。

この絵画展を通じて、今の子どもたちの国際交流への想い、そして未来が伝わるに違いない。そして、一人でも多くの

事実学びながら身近な家族や仲間たちと一緒に誰でも自然に複数のことばが話せるようになる環境づくりをしている。その環境づくりのひとつとして、ホームステイを中心とした国際交流プログラムを行っている。

コロナ禍の前は、年間一〇〇〇人を超える人が世界中にホームステイに出かけ、一〇〇以上の国や地域からホームステイの受け入れを行っていた。しかし、コロナの影響により、海外の国との往来が困難になり、約二年間、以前の様な交流はできなくなってしまった。しかし、そのような中でも、受け入れ可能な国とは、高校生たちが一年間の留学プログラムに参加し、世界で頑張っている。また、小中学生の子どもたちも世界中の国との交流をオンラインで行った。オンラインという制約の中、大人の想像をはるかに超える創意工夫を凝らす子どもたちに大人は皆、目を見張った。世界中の人と繋がりたいという子どもたちの夢は途切れることはない。

そんな国際交流の中で、子どもたちは音声言語のみならず、絵を書いたりしながら、多様な価値観を互いに分かち合う豊かな未来を作っていくのを願うばかりである。

末尾にはなるが、つくりびと創刊一〇周年を心よりお祝い申し上げると共に、読者の皆様には、「つくりびと総合芸術展二〇二二 未来のつくりびと展」にお立ちより頂けると幸いです。



【巻頭コラム】
一般財団法人 言語交流研究所
ヒッポファミリークラブ活動推進部
多言語の流れるスピーカーを家の中に置いて、多言語に浸る環境づくりをしています。また近くの活動の場に集まり、子どもも大人も一緒に多言語を育て合います。詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.lexhippo.gr.jp>

【評論執筆】面谷哲郎（おもや てつろう）
1940年東京都生まれ。京都大学文学部美学美術史学専攻を卒業後、筑摩書房に勤務。『古典落語』『江戸時代図説』『井伏鱒二全集』ほかの全集、また『日本美術史の巨匠たち』『油絵初学』『眼鏡絵新考』ほかの単行本を編集。併せて幼年向け童話の創作、美術評論の執筆などで現在に至る。